

学校だより 「'10まかべ」

第12号

2010（平成22）年6月25日

糸満市立真壁小学校

6月21日（月）に平和集会を行いました。

「もう戦(いくさ)はあってはならない」

（徳元孝助さんの講話より）



「誓いのメッセージ『平和の光』を読み上げる全児童」

今月は「平和月間」です。図書館では平和パネル展コーナーが設けられ、平和に関する児童書が紹介されたり、沖縄戦のパネルを展示したりしています。新しい試みとして、放送読書と称して平和のメッセージを2回に分けて放送しました。

主取り組みとしての平和集会を21日に行いました。辛い戦争体験を徳元孝助さんに語ってもらい、照屋希之薫さんによる県平和メッセージ展優秀作品の朗読を聴きました。締めくくりには、全児童で誓いの言葉「平和の光」を読み上げました。

■ 徳元孝助さんの講話概要



- 戦争中は、小学5年以上は防空壕掘りや兵隊さんの陣地づくりをしていた。
- 教室は兵隊さんが使っている、学校の勉強は外の木の下でやっていた。
- アメリカの武器は機関銃、日本の武器は竹槍だった。
- 昼はじっとして、夜になってから食料を探しに出かけた。
- 水は、壕の天井からしたり落ちるしずくを茶碗にためて飲んでた。

- 6月20日になると、ひめゆりの塔の周辺では、たくさんの方が逃げるために右往左往（うおうさおう）していた。
- 自分の子どもを池におぼれさせる人もいた。頭を押さえつけて。人間は本当は「子どもは目に入れても痛くない」はずなのに。
- 戦争は、人間を人間でなくする。
- 戦争が終わってみると、家も石垣も全部なくなっていた。
- みなさんは平和な世界に生まれた。もう戦（いくさ）はあってはならない。

■ 児童代表「お礼のあいさつ」

総合の時間に沖縄戦について、調べ学習をしました。沖縄戦当時は、一般の人の服装はもんぺだったそうです。今のような贅沢は出来なかったんだと思いました。

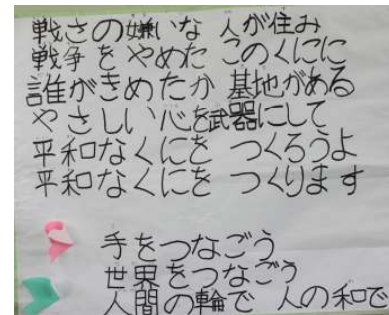
今日のお話を聞いて、5年生以上が避難する壕をほるのを初めて知りました。飲み水にさえ困っていたことは、今では考えられないことです。

私は、平和な世界を作るために、まず思いやりが必要だと思います。けんかばかりしていると、それが大きくなって戦争につながるんだと思います。

仲間はすれにしないと、友達を大事にすることが大切です。みんなで、仲の良い真壁小を作っていきます。徳元さん、今日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。（新垣由布子）



■ 本校図書館の「平和パネル展コーナー」にも足を運んでください



本校図書館と階段スペースに「平和パネル展コーナー」が設置されています。世界平和に貢献した「マザーテレサ」や「ナイチンゲール」等がやってきたことを紹介したり、平和に関する児童書を展示したりしていて、すぐにも手にとって読むことが出来ます。沖縄戦に関する本が多数あり、沖縄戦はどうだったのか、平和って何か、私たちがどう頑張ればいいのか等について、考えるきっかけをつかむことができると思います。左は、パネル展に掲示されている詩です。

本校の平和学習の取り組みと児童の頑張りが評価されました！

その1…「第20回県児童生徒の平和メッセージコンクール」の照屋希之薫さん（6年）が詩部門で優秀賞獲得

その2…平和記念資料館「平和の読み聞かせ」コーナーでは金城礼奈さん（5年）が「世界で一番強い国」を読み聞かせ

新聞で報道されていまして、本校児童の照屋希之薫さんが、上記コンクール詩部門で見事に優秀賞を獲得しました（受賞作品が裏にあります）。本校高学年では、総合的な学習の時間で「平和学習」に取り組んでいます。保護者や地域の方々の協力を得て、平和記念資料館や対馬丸博物館、ひめゆり資料館等での調べ学習、萬華の塔（真壁）での戦争体験者の講話視聴などの多様な形態をとおして、学習を積み重ねてきています。

照屋さんの平和をとらえる感性の鋭さと考えの深さが、これらの学習から得た成果を結実させてくれたと、全児童並びに全職員が喜びでいっぱいです。私たちのやっている学習が間違いのないものだ確信し、ますます頑張っていこうと思っています。

23日の慰霊の日には、全沖縄戦没者追悼式に先立ち、平和記念資料館2階にて「児童生徒平和メッセージ展開会式」が行われました。受賞者を代表して、照屋さんが受賞作品の朗読を行いました。また、同日の読み聞かせ会において、金城さんが「世界で一番強い国」を読み聞かせしました。本校児童の活躍が、全児童の自信につながるとしています。



「平和メッセージ展会場にて、照屋さんご両親」→